

公開シンポジウム 「植物バイテク技術が切り拓く林木育種の高度化と効率化」 を開催

1. はじめに

令和7年9月11日(木)に、農林水産技術会議委託プロジェクト研究「炭素貯留能力に優れた造林樹種の効率的育種プロジェクト」の成果報告の一環として、公開シンポジウム「植物バイテク技術が切り拓く林木育種の高度化と効率化」をオンラインで開催しました。カーボンニュートラルの実現に向けて森林によるCO₂の吸収・固定への関心が高まるなか、ゲノム編集技術を活用した樹木研究の最新成果を広く共有し、植物バイオテクノロジーが拓く林木育種の将来像について議論することを目的として開催したものです。当日は、大学をはじめ、公的研究機関、民間企業、省庁、都道府県、林業関係などから、142名の方に御参加いただきました。

2. 本シンポジウムの構成

当研究センターからは七里吉彦主任研究員が「スギにおけるゲノム編集技術開発の現状と今後の展望」、佐藤良介主任研究員が「ゲノム編集によるスギの炭素貯留に関わる遺伝子の同定と機能評価」と題したプロジェクト成果発表を行いました。また、関連分野で御活躍の外部専門家4名をゲストに迎え、高強度樹木の開発、無花粉スギの苗木増産、作物への応用技術、組換え樹木の環境影響評価など、幅広いテーマについて御講演いただきました。

3. 聴講者からの声

シンポジウム後のアンケートには多くのコメントが寄せられました。今後の期待としては、「気候変動に適応するだけでなく克服できるような樹木の作出に期待したい」「ゲノム編集技術のさらなる実用化を進めてほしい」といったコメントが寄せられました。



概要説明中の森林バイオ研究センター
七里 吉彦 主任研究員

4. 終わりに

今回のシンポジウム開催は、ゲノム編集技術をはじめとする植物バイテク技術への理解を深めていただく機会となるだけでなく、林木育種の現状や課題を広く知っていただく貴重な場にもなりました。今後もこうした取り組みを継続し、研究成果を社会へ発信していきたいと思えます。

(森林バイオ研究センター 佐藤 良介)